



# 洋上アルプス

No.325 2022年4月5日



発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1  
TEL 0997-42-0331 FAX 0997-42-0333



## 登山者の安全確保を！「荒川登山道定期安全点検を実施」(2月22日)

屋久島山岳部保全利用協議会は、縄文杉に向かう登山者への安全対策の一環として行っている荒川登山道定期安全点検を、環境省・林野庁・鹿児島県・屋久島町・屋久島町観光協会等関係する団体から15名が参加し実施しました。

当日は、荒川登山口から大株歩道入口までのトロッコ道区間(7km)において危険箇所の点検を行いました。

これまで示された危険箇所の変化状況などを参加者全員で点検し、亀裂のある岩や枯損倒木が滑り落ちそうな危険箇所については、今後も協議会で経過観察を行うことを確認しました。

登山者及びガイドの皆様におかれましては、

雨が降った後の山(斜面)の状況に注意を払いながら登山するようお願いします。



参加者全員で危険箇所を点検

## 小杉谷閉山50周年記念植樹(3月21日)



関係者の集合写真

2月に開催が予定されていた「小杉谷閉山50周年記念式典」が、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となったことから、関係者による小杉谷小中学校跡でのソメイヨシノの記念植樹が計画されました。しかし当日はあいにくの天気で小杉谷での記念植樹も中止となりました。

総合センターに集まった関係者に対し、荒

木町長からは、小杉谷閉山50周年にあたり、小杉谷・石塚集落が、国内有数の林業開発の拠点として重要な役割を果たしてきたこと、今後、町として小杉谷・石塚集落跡については地元の子ども達の学びの場としての活用を進めたいとの挨拶がありました。

また、石塚集落の出身者である、屋久杉自然館の佐々館長からは、自身の登下校時の思い出や集落での生活、昭和38年の豪雪被害の体験などの話がありました。

小杉谷・石塚の住民は、時には厳く過酷な環境の中でも、明るく活力のある生活を送っていたとのことでした。

なお、準備したソメイヨシノは、3月28日に屋久島森林管理署の職員の手によって植林されました。

# 令和4年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画

当保全センターでは令和4年度の以下の業務を計画しています。

## 1. 森林生態系保全業務

- (1) 職員と森林保護員(GSS)による世界自然遺産地域等のパトロール
- (2) 森林生態系モニタリング調査(屋久島中央部地域の植生調査等、高層湿原保全対策)及び著名ヤクスギ等の樹勢診断
- (3) 低地照葉樹林調査
- (4) 気象モニタリング(雨量、気象観測等)
- (5) ヤクシカ対策(植生保護柵保護管理、有害鳥獣捕獲等)
- (6) 屋久杉巨樹・著名木調査

## 2. 普及教育及び森林空間総合利用等

- (1) 森林環境教育、「屋久島森の塾」等の実施(他機関との連携協力)
- (2) 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会等への指導・助言

## 3. その他

- (1) 関係機関等との連携・協力
- (2) 広報誌「洋上アルプス」及び年報の発行
- (3) 学術調査研究等に係る入林手続き
- (4) ホームページの更新及び充実
- (5) 各種資料のデータベース化(雨量観測、学術論文等)

## 屋久島主要箇所の2021年雨量データ

観測場所	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
台風襲来回数								1	1				2
保全センター (標高 5m)	247	323	266	262	450	503	478	328	320	244	392	102	3,913
宮之浦林道 (標高 460m)	346	414	313	230	808	635	1,139	668	477	323	456	185	5,993
湯泊林道 (標高580m)	184#	208	415	363	767	954	765	450	320	97	61#	0#	4,581#
白谷雲水峡 (標高 630m)	324	1,080	385	461	667	979	794	792	771	535	512	174	7,470
白谷林道220支線 (標高 650m)	299	688	290	272	682	681	876	690	714	404	422	165	6,180
小杉谷 (標高 680m)	285	1,075	487	649	801	971	674	1,080	784	519	582	178	8,082
カンカケ岳 (標高 730m)	126	107	228	287	569	340	408	505	286	55	161	61	3,130
ヤクスギランド (標高 1000m)	297	1,387	1,081	1,216	1,238	1,406	985	958#	470#	434	540	132	10,142#
大川林道 (標高 1020m)	220	293	467	420	994	789	1,089	759	5#	78#	269	159	5,538#
淀川登山口 (標高 1380m)	260	865	892	756	251#	0#	0#	438#	666	342	437	154	5,059#
黒味岳 (標高 1800m)	65	333	280	255	501#	0#	0#	610	408	184	228	70	2,931#

※ 台風襲来回数は、南九州に接近した回数 ※ 雨量 (mm) ※ #は期間中に欠測のあることを示す。

上記の表は、屋久島に設置している11箇所の雨量計データ2021年分を集計したものです。ただし、欠測のある月は「#」で示しています。

[年間降水量] 最大値は10,142mm(ヤクスギランド)、全体の平均(場所毎の欠測月を除く)は6,208mmでした。

[月別降水量] 最大値は1,406mm(ヤクスギランド、6月)、全体の平均(欠測場所を除く)は138mm(12月)~806mm(6月)となりました。

台風接近に伴って、南から湿った雨雲が断続的に流れ込むことにより、屋久島の山岳部に大量の雨を降らせています。

※この雨量観測は気象業務法第6条1項1の研究のために行う気象の観測となっています。

## 人の動き

### 4月1日付転入

- 所長 山部 裕一 (九州局森林管理局総務企画部専門官)
- 係員 川畑 一步 (鹿児島森林管理署)
- 行政専門員 古市 真二郎 (北薩森林管理署長)

### 4月1日付転出

- 九州森林管理局計画保全部治山課長 林 友和 (所長)
- 宮崎北部森林管理署 地域統括森林官 宮木 利浩 (生態系管理指導官)
- 鹿児島森林管理署 諫山 雄一郎 (主事)

## 屋久島里めぐり（第4回）

### 春牧集落・永田集落

公益財団法人屋久島環境文化財団 佐々 航平

#### ●春牧集落について

世帯数460世帯を超え、屋久島で3番目に大きい春牧集落は、島の南東岸にあります。

ヤクスギランドがあるレクリエーションの森や、縄文杉に続く登山道への入口としてよく知られており、長期滞在する旅行者もたっぷり楽しめます。

横峯遺跡で縄文時代（紀元前1万年～紀元前300年）の集落に思いを馳せたら、春田浜海水浴場という潮だまり（タイドプール）が点在する海辺で探検するのもいいでしょう。

盛久神社の境内にある樹齢100年を超える絡み合ったアコウの木も人気スポットです。この「夫婦」（めおと）のような根はお互いに寄り添い、上空では青々と茂る枝が絡みついて支え合っています。

山野草が好きな人は、春牧集落が

出版したハンドブックを是非1冊手に入れてください。地元のお店などで販売しています。花の色や咲く場所、花が満開になる季節ごとに見やすくまとめられています。



盛久神社の夫婦アコウ

#### ●永田集落について

島の中央に位置する奥岳の山々。屋久島の海岸沿いにある集落からは、その周りを囲む手前の前岳の山々に隠れて、奥岳の頂きが見えませんが、唯一の例外が永田岳です。

屋久島で2番目に高いこの山は標高が1,886mあり、同じ名前を持つ集落から眺めることができます。

屋久島西岸にあり、世帯数が230世帯に満たない永田集落は、環境を大切にする集落で、1970年代はじめに率先して屋久島の森を守る活動に取り組みました。

ここは、ウミガメが産卵する場所としてもよく知られており、毎年5月から7月にかけて、前浜、いなか浜、四ツ瀬浜で産卵の様子が観察できます。

8月には、孵化したばかりのウミガメが見られます。なお、この時期は、これらの浜辺への立ち入りが規制されています。産卵観察ツアーはネット予約できます。



集落より望む永田岳（1886m）



## 屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

### ◆目的

垂直方向の植生モニタリング調査は、平成11年度から屋久島を5つの地域に分け、それぞれ5年ごとに継続して実施し、過去の植生等の変化を見るとともに今後の動態の予測を行い評価するものである。令和2年度の植生垂直分布調査は、屋久島北部(図1)を対象とし、平成17年度に設定したプロット及び、前回（平成27年度）に拡張したプロットにおいて、5年経過後の植生変化や林分構造（階層構造）等を観察した。

### ◆調査項目

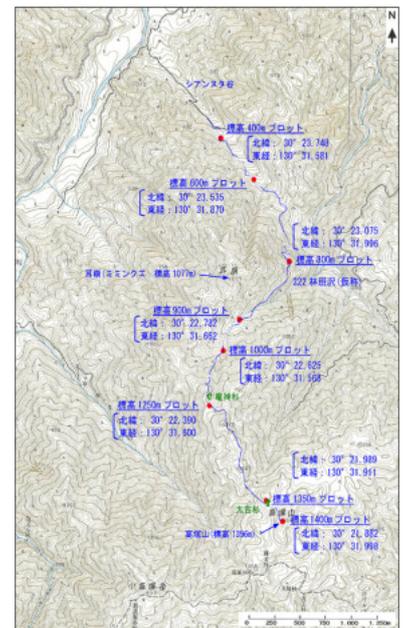
- ・プロットの設定箇所の位置・地形等概況把握
- ・毎木調査・下層植生調査、階層構造把握
- ・シカの影響調査
- ・種別標高別の出現植生リスト作成
- ・階層区分植生調査
- ・階層構造模式図、群落配分図の作成
- ・過年度との比較・考察

### ◆調査地点

植生垂直分布調査は、標高0m地点から標高1400m地点（高塚山山頂付近）までおよそ標高200m毎に設定されている既設のモニタリングプロットで、階層区分植生調査等の調査を実施した。（図2）



（図1）令和2年度調査地点



（図2）植生垂直分布調査地点位置図

## 木に逢う日々（第3回）「南の島の雪山」

当保全センター GSS 野々山 富雄

屋久島にも春が訪れ、すっかり暖くなりました。ここは南の島ですが、実は冬、山岳部に雪が降り積もります。しかし、それをご存じない方も多いようです。冬はオフシーズンで観光客は少ないのですが、それでもいらっしゃる方は「南の島の雪を見に来た」という人か、「え、屋久島って雪降るの?」という人かのどちらかです。山岳部の道路も積雪凍結で、通行止めになることも多いのですが、入山禁止というワケではありません。アクセスが難しい分、人界から隔離された、荘厳な銀世界がそこにはあります。このところ温暖化からか暖冬で、さほどではありませんが、縄文杉の前で2m、雪が積もったこともあります。常緑樹が多いため、冬でも緑は残り、白銀の中の木々は、また力強さを感じます。ただ、まだ木のある樹林帯では、中途半端の積雪で、枝が垂れ下がってアーチとなり、行く手を阻んで、余計に歩き辛くなることもあります。技術的には、決して難しい雪山ではないのですが、別の困難が伴います。幸いなことにこの冬は大きな事故はありませんでしたが、かつては南国の雪と舐めてかかり、冬山装備の不備からの、滑落、遭難も何度もありました。私たちは自然の美しさと同時に、厳しさ、怖さも知ることが肝要なのでしょう。



積雪の様子